

【HIV検査】

日本では、毎年1000人以上の新規のHIV感染者が報告されています。厚生労働省のデータでは、2019年1年間の新たなHIV感染者は910名、エイズ患者は338名（累計ではHIV感染者21,727名・エイズ患者9,641名・血液製剤によるHIV感染者1,440名）となっています。このデータで、「HIV感染者」とは、免疫機能が低下してエイズを発症する前にHIV陽性が判明した人の数、「エイズ患者」とは、免疫機能が低下してさまざまな感染症を発症して初めてHIV感染が判明した人の数をあらわしています。「エイズ患者」の多くは、免疫機能が低下するまでHIV検査を受ける機会がなかったものと思われます。

過去にはエイズは致死的な疾患と考えられていましたが、現在は抗ウイルス剤を内服することにより、ウイルス量の抑制と免疫機能の改善が可能となっています。感染のリスクの高い状態に置かれている人は、さまざまな機会を利用して検査を受け、陽性であることがわかれば抗ウイルス剤の内服を始めることが勧められます。感染の不安があっても、具体的にどこで相談したらいいのか、どこで検査が受けられるのか、わからない方が多いのではないのでしょうか？保健センターや専門の検査センター（長堀橋駅近くの「chot CASTなんば」など）で無料・匿名で検査を受けることができますが、受付時間や結果受け取り時間が限られていて受検しづらいと思っている方もいるかもしれません。

HIV検査について

当クリニックでは、HIV即日検査を導入し、検査当日に結果がわかるようにしました。（1週間後に結果がわかる通常検査を選ぶこともできます。）検査予約は不要で、匿名での検査も可能ですが、他の性感染症（クラミジア・梅毒・B型肝炎など）を合併している場合や、免疫不全を疑わせる症状がある場合には健康保険が適応できる場合もあります。

検査を希望して来院されれば、この検査について詳しく説明したうえで、HIVのみ検査するのか、他の性感染症も一緒に検査するのかを相談します。この時、どのような感染のリスクがあったのかうかがいますが、話しにくいことを無理に訊くようなことはありません。

当クリニックでのHIV迅速検査

2～3ccほど血液を採血し、30分程度でHIVの抗原と抗体を検出する検査です。HIVについては、抗体ができてウイルスは排除されないため、抗体陽性の結果はHIVに感染していることを示しています。検査の感度は高いので陽性（感染していること）を見逃すことはありませんが、通常の検査に比べて、偽陽性率（ぎようせいりつ：HIV に感染していなくても、検査の結果が陽性になる確率）が1% 近いという欠点があります。100 人に1 人程度の人がHIVに感染していなくても、陽性と判定されてしまいます。したがってこの検査で陽性の場合、「感染している可能性がある」との判定となり、本当にHIVに感染しているかどうかを確かめるために詳しい検査が必要になります。当クリニックでは、迅速検査で陽性となった方については採血した残りの血清を用いて[大阪健康安全基盤研究所 \(大安研\)](#) に詳しい検査を依頼し、その結果は2～3日後にわかります。結果が陽性の場合、専門的にHIV感染症の診療をおこなっている病院の情報を提供します。

【HIV感染症診療】

2020年7月より、HIV感染症の専門外来を開設します。当面隔週土曜日（第1・3・5）の午前9:30～12:30、予約制です。現在HIV陽性者のほとんどは抗ウイルス治療（ART）によりウイルス量は十分抑制され、免疫機能を示すCD4陽性リンパ球数も上昇して日常生活に支障のない状態となっていますが、病状が安定していても3ヶ月に1回は医療機関を受診して検査と処方を受ける必要があります。しかし、多くの医療機関は平日の昼間しか診療をおこなっておらず、平日の通院が難しいと感じている陽性者の方もいるのではないのでしょうか。そこで、当クリニックの外来診療のない土曜日の午前中に、専門外来を開設することとしました。担当する医師は25年以上HIV感染症診療に携わって来たベテラン医師です。合

併する高血圧・糖尿病・脂質異常症・慢性腎臓病についても併せて診療いたします。（専門的な診療が必要な疾患については、他の医療機関に紹介することもあります。）また、HIVに詳しい看護師・MSW（医療ソーシャルワーカー）もおり、国立大阪医療センター・大阪市立総合医療センター・堺市立総合医療センターなどHIV感染症診療の専門医療機関と連携しておりますので、安心してご来院ください。

【土曜日外来の予約について】

- 医療機関からでも、ご本人からでも予約を受け付けます。
- 予約受付時間：平日（月～金）9：30～18：30
- 電話06-6455-8755で以下の項目をお伝えください。
- 氏名・生年月日・住民票のある市町村名
- 現在受診中の病院名と担当医師名・直近のCD4とウイルス量
- 身体障害の等級・自立支援医療制度利用の有無
- 内服中の抗ウイルス剤の薬剤名と残っている薬剤の日数
(初診時に自立支援医療変更の手続きを始めますので、初診時には抗ウイルス剤の処方はできません。予約日に少なくとも2週間分の抗ウイルス剤の手持ちがあるようにご配慮をお願いします。)
- 医療機関から電話予約された場合、診療情報提供書は後日郵送していただいても結構です。ご本人から予約の電話があった場合には、こちらから担当医に連絡しますので、診療情報提供書の郵送をお願いします。